【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成20年6月19日(2008.6.19)

【公表番号】特表2003-528481(P2003-528481A)
【公表日】平成15年9月24日(2003.9.24)
【出願番号】特願2001-527469(P2001-527469)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｂ　7/26　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｂ　7/26　１０２

【手続補正書】
【提出日】平成20年4月22日(2008.4.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
本発明によれば、沈黙期間はシステム内で動作する遠隔ユニットにより観察される。沈黙期間の間、基地局の包囲エリアにおける単一の遠隔ユニットは信号を基地局に送信する。この遠隔ユニット信号は、基地局に近接して現に動作している遠隔ユニットにより生成される干渉をほとんどあるいは全く受けない。基地局は、通常のパワー制御オペレーションにより、パワー制御コマンドを遠隔ユニットに送信する。蓄積された送信利得調整値は決定されて記録される。沈黙期間の最後で、通常の動作が再開される。遠隔ユニットは基地局に信号を送信することを継続する。ここでは、遠隔ユニット信号は、基地局に近接して現に動作している遠隔ユニットにより生成される干渉の影響を受ける。すなわち、基地局から遠隔ユニットへ送信されるパワー制御コマンドは、増大した干渉レベルを反映し、概して、遠隔ユニットにより配送される送信パワーの増大を指令する。システム動作ポイントが変更された動作状態に応答して変化するとき、蓄積された送信利得調整値が決定される。沈黙期間の送信利得調整値と通常の動作時の送信利得調整値との間の関係は、式（３）に従ったシステム荷重の表示を提供する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４８】
一実施形態において、デジタル処理ブロック９８は試験信号、パイロット信号あるいはデジタル／アナログ変換器１０４に結合される他の既知の信号を生成する。デジタル／アナログ変換器の出力は可変ゲイン増幅器１０６に結合される。可変ゲイン増幅器１０６のゲインは加算器１０２の出力によって決定される。可変ゲイン増幅器ブロック１０６の出力はデュプレクサ１０８の送信パス入力に結合される。デュプレクサ１０８の送信パス出力はアンテナ９０に結合されて基地局４０に送信される。